

第6回 豊岡市竹野地域小中一貫校開設準備委員会 会議録（要旨）

- I 日 時** 2024年8月21日（水）19時00分～20時20分
- II 場 所** 豊岡市役所 竹野庁舎 大会議室
- III 出席者** ≪委員≫18名（委員名簿順）
田中博文委員長、加藤未来副委員長、田村高志委員、富森孝委員、仲治寿幸委員、大井真由美委員、上野真希委員、宮崎裕紀委員、太田垣輝尚委員、辻正孝委員、山本英里子委員、長谷川博子委員、福田達也委員、高田健一郎委員、宇川博久委員、間智子委員、小林昌弘委員
米田達也豊岡市議会議員（オブザーバー）
（欠席）古保治郎委員、増田克志委員、上田彩乃委員
≪事務局≫5名
寺坂浩司課長（学校教育課）、木之瀬晋弥課長（教育総務課）、野崎律男参事（同）、川瀬貴之主幹（同）、今井雄一主査（同）
- IV 傍聴者** なし
- V 内 容**
- 1 開 会
 - 2 挨 拶
委員長から挨拶
 - 3 議 事
 - (1) （仮称）竹野学園の施設整備予定について（報告）
スライドをもとに整備予定等を説明した。
 - (2) 校章について
事前に各委員に校章候補3点を選定してもらい、集計後、上位6点を発表した。
その後、今後の進め方（最優秀候補の選定方法等）について協議を行った。

（協議結果）
 - ・選出した6点について、デザインを清書し、後日、開設準備委員会委員に送付する。
 - ・次回の開設準備委員会で、最終決定の方法を検討する。
（委員による投票か子どもたちによる投票のいずれか）
 - (3) 通学方法の検討について（報告）
7/24に保護者の代表と通学方法についての意見交換会を実施、出された意見を報告した。
※7/24の意見交換会で使用した資料、出された意見については別添当日資料のとおり

(4) 閉校式・開校式等について

事前配布資料「閉校式・開校式等について」をもとに、閉校式・開校式等開催の考え方を説明。

- ・閉校式・開校式については、市と市教育委員会が主体となり行う。
- 閉校記念行事を行う場合は、地域やPTAが主体となり実施していただく。
- ・記念行事の実施の有無等、地区で意向確認していただきたい。

(5) 部会等からの報告・提案について

ア 学校応援部会の検討（報告）

委員、竹野中学校長より検討状況を報告していただいた。

- ・制服については、メーカーの協力により、別添のようなチラシを作成している。今後、改めて、学校園の保護者に配布する予定。
- ・9月には制服の価格をお知らせする予定。
- ・体操服についても決定した。半袖・短パンについては、1～9年生共通、6～9年生には長袖・長ズボンもあり。希望があれば5年生以下も、長袖・長ズボンを購入、着用可とする。
- ・PTAの規約等の検討も進めている。

イ 学校より（報告・協議）

（仮称）竹野学園 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の委員が決定したことを報告していただいた。

4 次回予定

- ・次回の開設準備委員会は、建築工事の業者が確定し、工期等の詳細が分かり次第、開催する。（10月頃を予定）

5 閉 会

VI 主な発言内容等（要旨）

※意見・質問があった部分のみ掲載

(1) （仮称）竹野学園の施設整備予定について（報告）

《A委員》

空調工事は9月末までとなっているが、低学年棟では9月から授業が始まる予定である。教室については空調が使える状態になっているのか。

《事務局》

工事が少し残っている部分もあるかもしれないが、低学年棟を含め、教室についてはクーラーが効いた状態で授業をしていただけたらと考えている。

工事が残る場合であっても、夏場に無理に使う必要がない特別教室等、優先順位を決めて工事を行っていく。

(2) 校章について

《委員長》

各委員から選ばれた校章候補 6 点が事務局から発表された。これらについて、最終的に 1 点選ぶこととなるが、どのような方法で選ぶか。

前回の開設準備委員会では、①委員の投票で選ぶ、②子どもたちに投票してもらう。③竹野地域の住民に投票してもらう といった意見が出された。この中から、どの方法とするか、意見をいただきたい。

《B 委員》

デザインの完成度にどうしても目が行ってしまう。ここにいる委員であれば、完成度だけではなく、子どもたちのいろいろな思いや、アイデアも見ていただき、お互い共通認識をした上で決めていただけるのではないかと。また、デザインにしても、ある程度、整えていただいたうえで、比較することも考えられないかと思う。

《C 委員》

私も、デザインだけではなく選んだ理由も含めて考えていきたい。また、近いデザインのものも多かったのもので、それも含めて委員の皆さんで考えて、すり合わせていった方が良いのではないかと思う。

《A 委員》

デザインについては、最終的にどのように仕上げていくのか。

《事務局》

最終的な候補 1 点については、デザインの専門業者に、校章として使えるように、また、類似のものがいないかどうかを確認していただいたうえで清書をしていただく予定としている。

その前に、他の作品についても、簡単にでも少し清書した方が良いということであれば、事務局で持ち帰らせていただき、線を濃くするとか、若干の画像処理を行うなど、可能な範囲で整えるような作業はできると思う。作品に込められた理由も含めて改めて検討していただくことも可能かと思う。

次回、確認をしていただいて、開設準備委員会で決めるのか、子どもたちに聞くのかを決めていただいても、スケジュールとしては間に合うと考えている。

《B 委員》

仮に、子どもたちに見てもらうのであれば、デザインした人の思いだけではなく、デザインを見た子どもたちの意見や感想も出し合って決めてもらえればありがたい。

中には、桜を入れたいという意見を書いている子もある。そういった意見も踏まえながら、決めていければと思う。地域までではなく、子どもたちまでであれば、そういった決め方もできるのではないかと思う。

《D委員》

B委員の言われるとおりだが、やはりデザインの完成度に目が行ってしまう。

選ばれた作品には、竹野を象徴する「竹」、「笹」、「波」が入っている。これらが入るような工夫を清書するうえでできないかと思う。

子どもたちに決めてもらうのは、なかなか難しいのではないか。また、保護者に聞いてみても、なぜうちの子どもの作品が入っていないのか、とならないか。

「校章は、このように良い作品が出きたので、開設準備委員会でこの作品に決めさせていただきます。」という形でよいのではないか。

《E委員》

D委員のいわれるように、コンテンツを見ていくと、波や笹が入っているのが良いなと思う。その中で、真ん中に入る文字については何が良いかなと皆さんで考えていきたい。完成度の違いはあるが、「学園」と入っていたり、アルファベットが入っていたりしているので、良いところ取りをして、いろいろなパターンで見たい。

《委員長》

それでは、一度事務局で持って帰ってもらって、次回、改めて委員で決めるのか、子どもたちにも意見を聞くのかを決めていきたい。

(3) 通学方法の検討について（報告）

《委員長》

事務局から、通学方法の意見交換で出された意見の報告があった。委員の皆さんから、通学についてその他の意見あれば発言いただきたい。

義務教育学校になれば、すべての子どもがバス通になるのか。

《事務局》

小学生については、義務教育学校になることで通学路が変更になるが、徒歩で通える範囲については引き続き徒歩通学となる（規定では3km以下の場合は原則徒歩となる）。

どのルートで通うことになるのか、見守りの場所はどこが必要か等は今後、学校等で検討していただくことになる。

《竹野中学校長》

通学距離により、小学校は徒歩とバス、中学校は徒歩と自転車とバスになる。学校の立場とすれば、同じ地区から同じ学校に行くのに、年齢の違いはあっても、小学生は徒歩、中学生は自転車の子どもがいるのは避けていただきたいと思う。小学生が自転車ではならないので、中学生は徒歩とバスという形にそろえていただければと思う。

《F委員》

運転手さえなんとかなればバス通学となるのか。運転手がいないのでバス通学が難し

いのか。

《事務局》

バスの運転手の課題と車両確保の課題、両方がある。車両についても、すべての子どもたちが乗るには何人乗りのバスがいるのか、山間部の集落に入る場合、進入・ターンが可能か等も検討が必要である。また、通学時間帯はほかのルートにもたくさんバスが走っており、増便は難しい。運転手も手一杯であるという状況である。

今ある公共交通機関を維持しながら、どのような方法がとれるのか、交通施策の状況も確認しながら進めていかなければならない。

現在、竹野地区では公共交通のあり方について検討されており、その状況も踏まえながら通学方法も検討しなければならない。

意見交換で出された、運転手を市の職員として確保するという案も、公共交通事業者への影響等も考えられることから、慎重に検討する必要がある。

(4) 閉校式・開校式等について

《委員長》

事例として、中竹野小の閉校記念行事については、PTAの有志（PTA会長や役員）の方が中心となって企画・運営をされたと記憶している。

《G委員》

竹野南は、区長会とPTAとが集まって実行委員会を立ち上げた。記念行事を行う担当と、閉校記念誌を制作する担当とを地区とPTAが半々になるように分けて、それぞれ準備を進めていった。

《H委員》

結構大変であった。記念品等も出した。

《委員長》

一度、持ち帰っていただいて、中竹野地区と竹野南地区は一度行っているのですが、竹野地区の方がどのように考えられるのか、PTA等でも聞いていただいて、検討していただきたい。

(5) 部会等からの報告・提案について

ア 学校応援部会の検討（報告）

《竹野中学校長》

制服メーカーに、制服のデザインが決まったことのチラシを作成してもらっている。後日、学校園の保護者に配布する予定。

2学期には制服の価格をお知らせする予定。

《G委員長》

P T Aの組織検討について、小中のP T A 3役が集まり、規約の素案を検討している。今後、学校とすり合わせをしながら詰めていく予定としている。

《I委員長》

制服の検討に引き続き、体操服の検討を行った。2つのメーカーからサンプルを出してもらって、色なども検討して、7/25に満場一致で決定した。

半袖と短パンについては、1年生から9年生まで共通、6年生から9年生のために、長袖・長ズボンも決定した。なお、長袖・長ズボンについては、5年生以下も、希望者には購入可とすることで調整している。

《竹野中学校長》

体操服については、小中同じデザインとした。中学校は長袖・長ズボンを体操服として着用することがあるが、小学生は現状、使っていないと聞いている。学校行事（宿泊研修等）でジャージが必要な場合は、体操服の長袖・長ズボンも使ってもらえるよう、低学年用からサイズ展開をしているデザインのものを選択した。必要であれば買っていただいてもよいとしている。

イ 学校より（報告・協議）

《竹野中学校長》

学校として、めざす学校像、子ども像、つけたい力については、ワークショップで出された意見、先生の意見をもとに決めていくということで、現在、小中の先生で意見を出し合っている状態である。

「このような内容でどうですか」といったことは改めて報告させていただきたい。

次に、コミュニティ・スクールについては、資料として学校協議会委員の名簿をつけさせていただいている。

地域をあげて子どもたちのことを考えていくという方向で、具体的にはこの2学期から取り掛かっていくこととしている。

《委員長》

学校運営協議会のメンバーは（案）となっているが、皆さんが了解されればこの場で決定するのか。

《事務局》

学校運営協議会の委員は、教育委員会で決定することとなっている。資料送付時点では案の状態であったが、8月19日の定例教育委員会で了承されているので、資料の（案）は削除していただきたい。

《竹野中学校長》

名簿にある肩書で、「C Sディレクター（予定）」については、初回の学校運営協

議会の会議で了承いただいて、決定することとなる。

《竹野中学校長》

別件となるが、今後、竹野地域でこのような取組ができる、このような人材がいて、協力ができるというようなことがあれば紹介をしていただきたい。

部活動が今後、地域移行へ進んでいく。その中で、子どもたちの放課後の活動の場として、今ある部活動だけではなく、将棋や絵画でもよいので、何か可能性があれば報告をしていただきたい。その中で何か一つでも形になれば、部活動の地域移行のひとつのあり方になると考えている。

《C委員》

地域の受け皿の課題もあると思うが、子どもたちに、どのような部活がしたいのか意見等は聞いているのか。

《竹野中学校長》

希望があったとしても、対応する手立てがないため、積極的には聞いていない。実際に地域で活動されている空手であるとか、希望としてボルダリングがしたい、趣味で絵が描きたいので、そちらを優先したいといった要望は聞いている。

4 次回予定

《事務局》

工事の事業者が決まり、具体的なスケジュールの調整ができ次第、皆さんに報告をさせていただきたい。

あわせて、学校から、学校行事の検討状況を決まっている部分だけでも報告をしていただきたい。

先ほどの校章の検討もしていただき、次回の会議で決まった部分について、保護者等を対象とした検討状況報告会を開きたいと考えている。

次の委員会は、10月頃になるかと思う。日程が決まり次第、お知らせをさせていただく。

(以上)